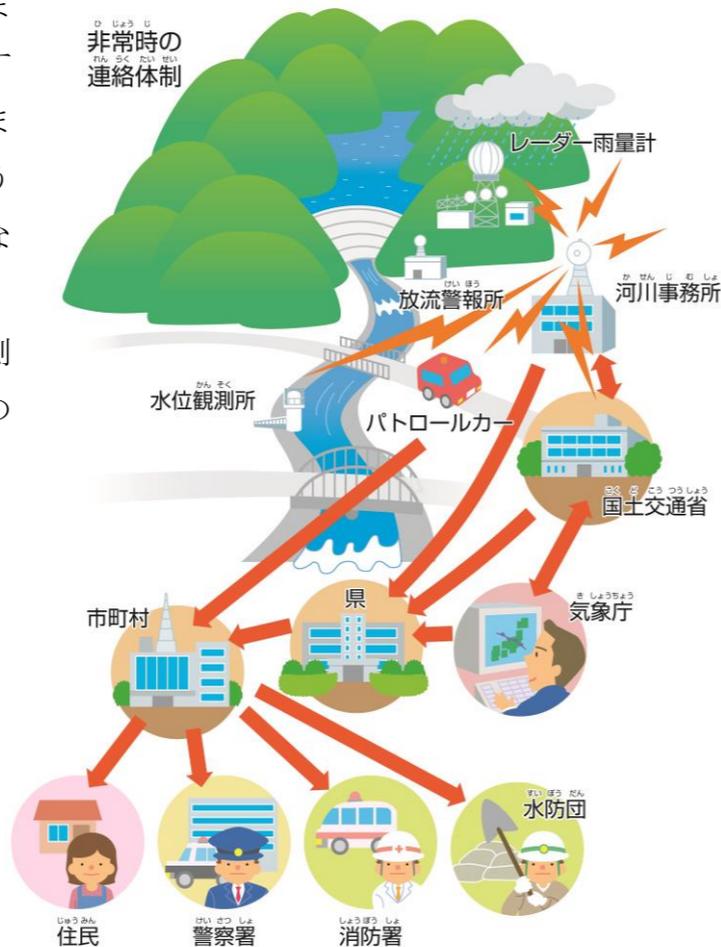


水害に備えて、流域ではどのように連絡しあっているのかな？

観測と連絡

洪水ひ害を防ぐには、川の施設をうまく働かせるために、いつでも川のようすや天気の様子を観測しなければなりません。また、予想以上の洪水になりそうな時には、ただちに連絡をしなければなりません。

そのために、川のいたるところに観測施設がもうけられるとともに、非常時の連絡体制が決められています。



住民が活やくする水防団

川の流域の町には「水防団」が組織されています。水防団のおじさんたちは、台風の時などに堤防に危険がないかを見てまわったり、岸や堤防を土のうや木で守ります。



▲水防訓練のようす。ビニールシートで堤防を保護



▲土をふくろにつめてつくった「土のう」を堤防につめています。

川を見守る施設

レーダー雨量計や水位観測所が、つねに雨や川のようすを観測し、洪水の危険を予測しています。

洪水だけでなく、かつ水にも備えて観測しています。



荒川上流河川事務所災害対策室(川越市)



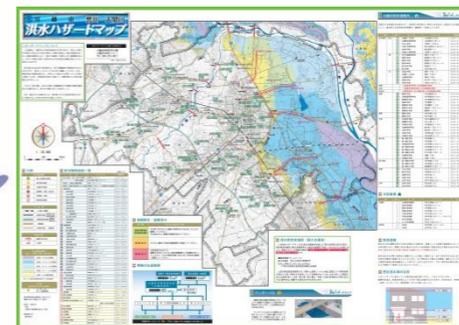
赤城山レーダー雨量計(群馬県)



入間川落合橋水位観測所(川越市)

川の豆知識 みんなも洪水に備えておこう！

○避難場所をおぼえておく



川越市ハザードマップ

○避難する時に持ち出すものを非常袋にまとめておく

